Design your Mission

事例
06

普通が一番難しい！ 共生型デイサービスが支える 普通の暮らし

岩井屋を利用する子どもたちと職員（運動会への参加）

特定非営利活動法人 普通の暮らし研究所

所在地	長野県東御市
創業	平成17年4月
業種	児童発達支援・放課後等デイサービス等
従業者数	36人
URL	http://www.iwaiya.org/

岩井孝司代表理事

ソーシャルビジネスの概要

■ Mission（解決を目指す社会的課題）

障がい者や高齢者が、自分らしく誇りや生きがいを持って日々を送る「普通の暮らし」の実現。

■ Action（課題解決に向けた取組み）

障がいのある子どもや大人、介護が必要な高齢者が世代を超えて交流できる共生型デイサービスを行うほか、就労支援を通じて障がい者の社会参加を促進。

■ Performance（活動実績）

これまでに、約300人が同法人の施設、サービスを利用（平成26年10月末現在）。

岩井屋スタイル

築150年ともいわれる古民家を改修した建物に、大きく「岩井屋」と記された表札。そこは、NPO法人普通の暮らし研究所が運営する、福祉と地域交流の基盤となる場所だ。

発達障がいのある子ども、若年性アルツハイマーを抱える男性、身体が不自由な高齢者など、さまざまな状態にある人々が、岩井屋に集い、言葉を交わし、共に働き、地域とのつながりを求める。

一般的なデイサービスではあまり見られないこうした光景は、障がいの種別や年齢の壁を越えて受け入れるデイサービスの試みが先駆的に行われた富山県の名を冠し、「富山型」と呼ばれる共生型デイサービスの特長である。

この「宅幼老所 岩井屋」を中心に、児童デイサービスを行う「岩井屋こども館」、共同生活介護、短期入所生活介護を行う「岩井屋館」等、同法人が運営する複数の福祉施設が付近にある。同法人は、医療機関との連携やボランティアスタッフの協力をはじめとした、地域内外からのさまざまな形での支援を得ながら、これらの施設の利用者に対するサービスを提供している。

共に生きる、共に創り出す

同法人が創る「共生」。その言葉が表現するものの一つに、障がい者に対する就労継続支援を目的とした「岩井屋農園」がある。農業の経験が豊富な高齢者の知恵と障がい者の力を掛け合わせるという発想から始まり、400坪の休耕地にビニールハウスを建てて農園を開いた。農作業には、土づくりから種まき、草取り、害虫駆除、水撒き、収穫、梱包、出荷に至るまで多くの工程があるため、障がいの様態に応じて、一人ひとりの障がい者が、自身に可能な作業に打ち込むことができる。

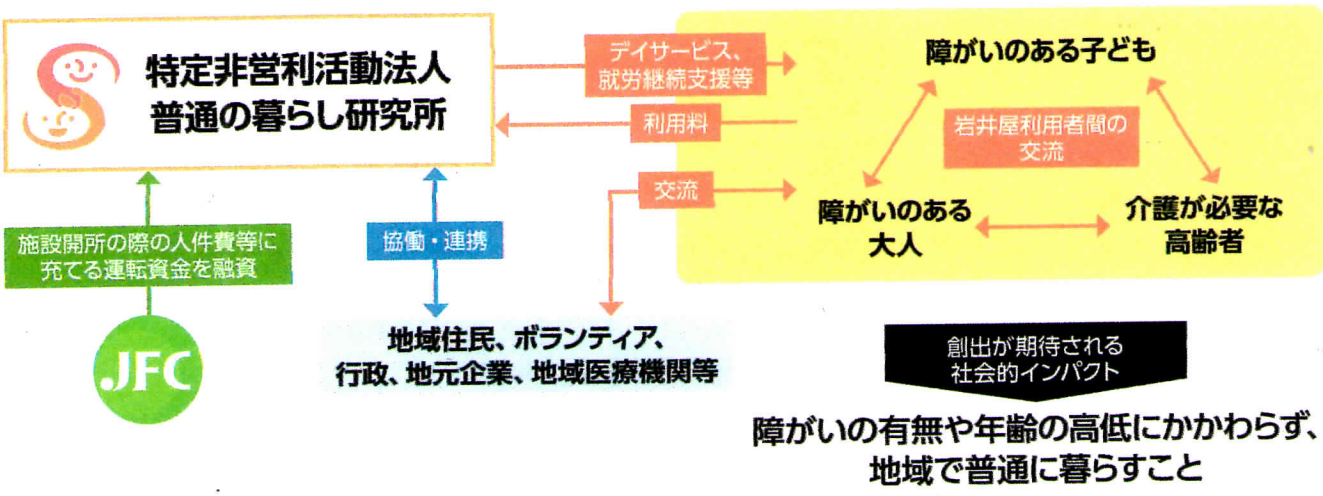
農業に関しては素人である障がい者が中心となって生産しているため、開園当初は、農産物の品質向上に苦労していた。しかし、高齢者による農業指導の効果もあり、現在は東御市内の道の駅やスーパーマーケット、レストランだけでなく、都心の顧客への宅配も増えてきている。また、岩井屋農園に触発されて、休耕地を活用した畑が次々と現れており、地域の活性化にも貢献することができたという。

岩井屋農園の作業風景

多様な人々の解け合う地域を目指して

平成26年6月、同法人は東御市に新たな福祉施設「台地の駅 御牧原 岩井屋」を開設した。元は保育園であった同施設の活用を期待する同市の支援を受け、園舎を改修して再利用するもので、同法人がこれまで事業を通じて培ったノウハウを活かして、児童デイサービスや通所介護、障がい者への就労継続支援といった複合的な福祉サービスを提供する。

また、軽食や飲み物を提供する食堂や地域のイベント等に利用できる交流スペースを設け、就労継続支援事業の一環として行う自家焙煎のコーヒー豆を販売する。福祉施設に地域住民を呼び込むことで、施設の利用者と地域との関わりを深化させる同法人の新たな挑戦である。同法人の岩井代表理事は、将来、同施設に道の駅のような直売所を設け、観光客も含めた地域内外の人々の交流拠点にしたいと考えている。

福祉施設の中だけではなく、外にも開放的であろうとする同法人の取組みは、多様な人々が交じり合う機会を地域社会に与えている。こうした取組みが共感とともに広がり、人々を取り巻くあらゆる垣根が取り払われたとき、きっと「普通の暮らし」は実現するのだ。

◉ ソーシャルビジネスモデル